

与謝野町産米の購入 (表1)

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|----------------------|-----|--------|
| よく購入する | 24 | 26.1% |
| ときどき購入する | 15 | 16.3% |
| あまり購入しない | 9 | 9.8% |
| まったく購入しない | 16 | 17.4% |
| 自家生産している、親戚からもらう | 23 | 25.0% |
| 農地の貸出先から地代として受け取っている | 5 | 5.4% |
| 合計 | 92 | 100.0% |

地元商店・飲食店・工務店の利用 (表2)

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| よく利用する | 17 | 18.5% |
| ときどき利用する | 49 | 53.3% |
| あまり利用しない | 23 | 25.0% |
| 利用しない | 3 | 3.3% |
| 合計 | 92 | 100.0% |

多様化する消費行動

- ・従来から町内産品や地元商店の利用が浸透
- ・すべての世代でインターネットの利用が浸透

与謝野町における1カ月のインターネット通販等利用額 (表3)

| 項目 | 全体 | | 40～50歳代 | | 60～70歳代 | |
|------------------|-----|--------|---------|--------|---------|--------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| まったく利用しない | 30 | 33.3% | 7 | 25.0% | 23 | 40.4% |
| 1,000円未満 | 11 | 12.2% | 2 | 7.1% | 7 | 12.3% |
| 1,000～3,000円未満 | 13 | 14.4% | 6 | 21.4% | 7 | 12.3% |
| 3,000～5,000円未満 | 10 | 11.1% | 3 | 10.7% | 6 | 10.5% |
| 5,000～10,000円未満 | 16 | 17.8% | 7 | 25.0% | 7 | 12.3% |
| 10,000～30,000円未満 | 8 | 8.9% | 2 | 7.1% | 6 | 10.5% |
| 30,000～50,000円未満 | 2 | 2.2% | 1 | 3.6% | 1 | 1.8% |
| 50,000円以上 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 合計 | 92 | 100.0% | 28 | 100.0% | 57 | 100.0% |

※ 40～70歳代を抜粋

▶ 町内経済循環を支える2つの要因

・町内年金受給額 (試算) 約100億円

・町の予算 (一般会計) 約100億円

※ 与謝野町総生産額…約565億円 (平成30年度きょうとの市町村民経済計算より)

消費

費動向は、町内産農産物の購入、地元商店や飲食店、工務店の利用が浸透していること、また、コロナ禍によって生活スタイルが変化し、すべての世代でインターネット利用が浸透しています (表1・2・3)。

また、町内の年金受給額が約100億円と推測され、年金受給者の皆さんが重要な消費主体となっていることも明らかにになりました。他にも、災害復旧や除雪作業を含めた公共事業も、地域経済を循環させる重要な役割を担っています。

今後、持続可能な与謝野町経済にするため、企業間の連携や産官学連携の促進、六次産業化の推進、農福連携による地産地消の拡大などの施策提案を受けています。

与謝野町地域経済分析報告書および同報告書の内容を説明した「与謝野町まちづくりシンポジウム (3月19日開催)」の様子は、町ホームページからご覧いただけます。



町ホームページ

地域経済分析結果から見る

与謝野町経済の**今**

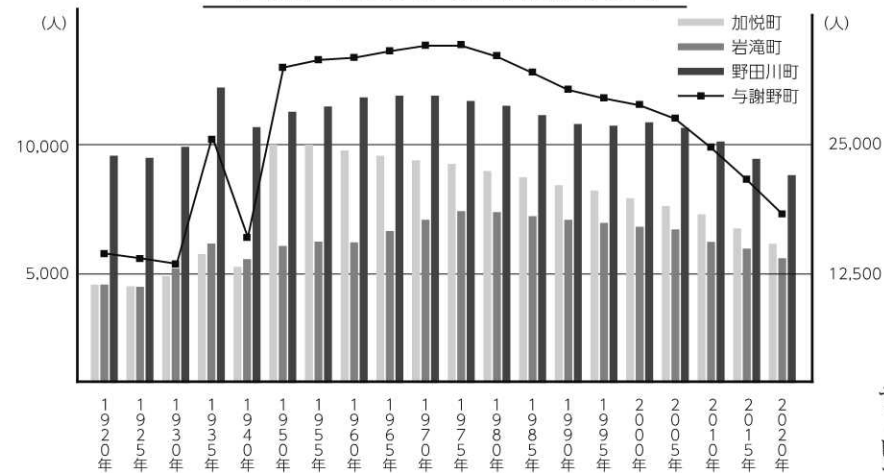
問 商工振興課 ☎ 43-9012

与謝野町では、令和3年度に町の経済の実態や特徴、課題を把握し持続可能な地域経済のあり方や未来への可能性を探るため、「与謝野町地域経済分析」を行いました。今月号では、分析結果から見える産業構造や消費行動、今後求められる施策についてお知らせします。

地域経済分析とは

与謝野町地域経済分析会議 (岸部 敬 会長) が町内の企業・団体や個人に対して実施した調査で、消費実態調査および企業連携調査と各種統計を基に与謝野町経済の現状や課題をまとめ、持続可能な与謝野町経済の実現に向けての政策提案をしたもの。

与謝野町における人口動態 (図1)

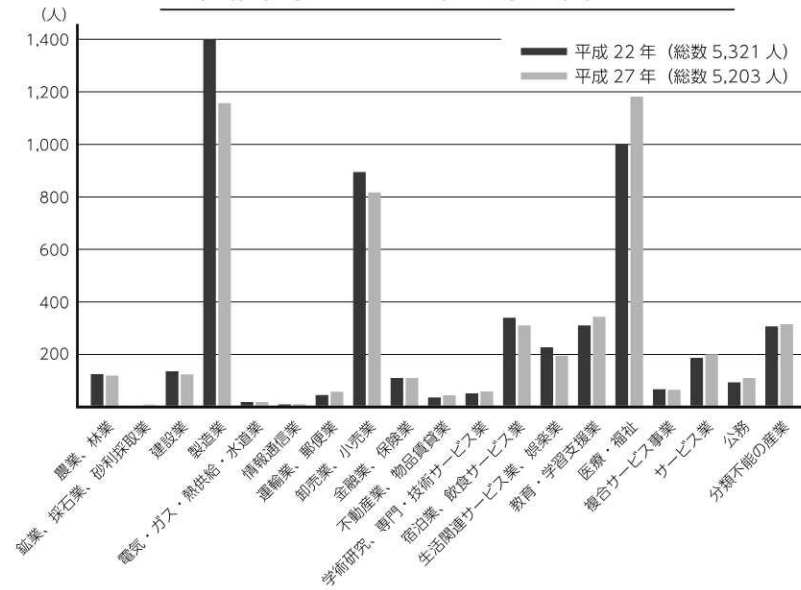


与謝野町の人口は1975 (昭和50) 年の2万8618人をピークに、2020 (令和2) 年国勢調査では、2015 (平成27) 年から約1700人減少し約2万1000人となりました (図1)。

今回の地域経済分析結果からは、事業所数や従業者数も人口と同様に減少しており、旧岩滝町と旧野田川町では緩やかに進む一方、旧加悦町においては急速に進んでいることがわかりました。

産業構造は、産業の主体がこれまで地域経済を支えてきた織物業などの製造業から、サービス業へと転換しつつある

与謝野町における業種別就業構造 (図2)



ることや多様化してきています。現在では、医療・福祉分野が地域雇用の最大の受入先になっています (図2)。また、近年の傾向として、自社ブランドの確立や高付加価値化、海外市場を見据えた販路拡大など、個性ある企業が活躍する地域へと変化していることも明らかになりました。

※ 掲載している図表は、令和3年度与謝野町地域分析調査報告書から引用しています